医志の継承と未来への展開

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井上, 正樹 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/32441

医志の継承と未来への展開

十全医学会 会長　井　上　正　樹

十全会会誌は当時の第四高等学校十全会が母体となって明治29年 (1896) に医学学術雑誌として創刊されました．その後，金沢大学十全医学会雑誌として現在まで第121巻，通算で300号発行しております．現在に至るまでの金沢大学における医学博士号の取得者は3,300名を超えておりますが，その多くは本誌に原著論文を投稿し学位を認められたものであり，まさに金沢大学医学部にとって医学研究の神髄を形成してきました．

長崎留学から帰郷した黒川良安は文久2年(1862)に種痘所を開設しますが，同時に壮猶館にて津田淳三，田中信吾，大田美農里，高峯精一，鈴木儀六らとオランダ医学書の輪読会 (蘭医会読講) を始めます．加賀藩は黒川らの熱意に沿って慶応3年 (1867) に卯辰山養生所を開設します．明治3年 (1870)，彼らが教官となって加賀藩家老，津田玄蕃の別邸にて庶民の診療と本格的な医学教育を開始します．これが金澤医学館であり，百姓・町民に至るまで志のあるものはすべて入学が許されました．翌年，加賀藩は，オランダ，ユトレヒト大学からスロイス (当時38歳) を教官として招聘します(図1)．金澤医学館の生徒達は通詞の助けを借りながらスロイスの講義録を作成します．これらの講義録は金沢大学医学部記念館資料室や金沢市立玉川図書館近世史料館に残されていますが，毛筆で極めて緻密に記載されています (図2)．まさに金沢の「解体新書」です．金澤医学館では，スロイスがオランダから持ち込んだオランダ語の教科書を基に，動植物学，解剖学，生理学，病理学などの基礎医学から外科学や産科学などの臨床医学に至る幅広い教科が教えられました．第一期生として9名が卒業します(図3)．その後石川県からの支援により石川県医学所が発足します．金澤医学館の学生は世界最先端の学問を学び，日本の医学の先駆者として各地で活躍しました．

金澤医学館は若き入学生を迎え活気にあふれます(図4)．そして，医を学ぶ学問所から探求し創造する学問所へと発展します．その新たな研究成果の発表の場として，明治29年 (1896) に十全会会誌が創刊されます(図5)．医学校内のわき上がる探求心がそのようにさせたのであろうと思います．本誌はこれまで多くの優れた論文を発表してきましたが，特筆すべきは高安右人博士が明治40年に発表した「奇異なる網膜血管の変状に就いて」の論文です(図6)．現在でも高安病として知られる脈なし病 (大動脈炎症候群) の第一例目の報告です．一地方の学術研究が世界へ発信された瞬間です．

本年，金沢大学医学部は創立150周年を迎えますが，先人達の医の志を継承し未来に発展させることこそが現在の金沢大学医学部 (医学類) や大学病院そして医薬保健研究域に課せられた使命であると感じています．

参考文献

1) 寺畑喜朔．金沢の医学百年　昭和51年5月
2) 金沢大学五十年史　通史編．金沢大学創立50周年記念事業講演会．平成13年8月
3) 山嶋哲盛．明治金澤の蘭方医たち．慧文社　平成17年7月